

保健体育科の主張

1 教科で育みたい人間像

5 保健体育科では、運動種目の技能を向上させる経験を積み重ねたり、健康や安全に関する内容を学ばせたりすることで、生涯にわたって運動に親しむことができる人や健康な生活を送ることができる人を育てることができると考えてきた。しかし、運動種目を通して「どうすれば上手くできるようになるのか」と運動技能が向上する仕組みを学習することだけでは、運動の行い方に関する知識は増えるものの、生涯にわたって運動に親しむことについての認識を深めることはできていないと考えている。同様に、教科書等に示された健康や安全に関する内容にふれ、「どうすれば健康課題を解決できるのか」と方法を考えることでは、健康な生活を送ることについての認識を深めることができていると考えている。

10 だからこそ、生涯にわたって運動に親しむこと自体の認識や健康な生活を送ること自体の認識を深めることを探究していく必要があるととらえている。そのような探究を通して、「そもそも運動に親しむとはどのようなことなのか」「健康な生活を送るとはどのようなことなのか」と立ち止まって考えることで、運動や健康に対する価値観を培うことができるだろう。また、その価値観は固定化されるものではなく、年齢や環境の変化に対応しながら探究を継続していくことによって、更新されていくものである。そのように自らの価値観を培う過程を繰り返し、自分の見方を鍛えることで、不測な事態に出会っても状況を適切に判断し、よりよい選択ができるようになるだろう。

15 これらをふまえて保健体育科では、状況を適切に判断し、よりよい選択ができるために「**運動や健康を科学する人**」を育てていきたい。

2 教科で願う子どもの学び

保健体育科で願う子どもの学びは「**運動や健康に関する事象に対して、問いを立て、その時の納得解を見いだす過程を繰り返すことで見方を鍛えていくこと**」ととらえている。子どもたちは、運動や健康に関する事象に対して、「どうしたらよいただろう」という疑問を抱きながら、思考と体現を繰り返していく。そのような営みの中で、事象に対して立ち止まり「なぜ。なんで。」という視点から共通の問いを立て、その時の納得解を見だし、議論する過程を繰り返すことができる題材構想や問い直しを大事にしたい。

25 体育分野では、運動の原則についての理解を深めることで、運動に対する概念を更新していくことが重要であると考えている。そのため本校では、その時の納得解を見いだす過程を繰り返し、見方を鍛えていきたい。そして、私たちの身の回りにあふれている情報の中から必要な情報を集め、整理し、着目する視点を増やしていくことを大切にしたい。例えば、リレー競技における利得タイムの正体について、「人の移動」ではなく「バトンの移動」に着目して考えることで、これまで見えなかった原則に気づくことができ、バトンパスに対するとらえ方が変わってくるだろう。このような学びを積み重ねるために、子どもたちが自ら事象に対して問いをもち、仮説を立て、検証を行い、考察し、その時の納得解を見いだすことを心がけている。さらに、その納得解をもち寄って仲間と対話すると、納得解の質が高まり、新たな運動の原則に気づくことで、運動に対する概念を更新していくと考えている。

35 保健分野では、健康に関する事象に対して立ち止まり「これはどういうことなのか」と子どもたちが問い直すような学びを大事にしていきたい。なぜなら、健康に関する問題は多岐にわたり、複雑に絡み合いながら社会情勢とともに変化する時代を生きる子どもたちにとって、自分の健康課題を解決する能力はますます欠かせないものになるからである。だからこそ、与えられた知識を理解するだけでなく、知識を改めて問い直し、その時の納得解を見いだす過程で、事象の理解が深まり、健康や安全に関する原則や概念についての理解にせまっていくと考えている。

45 保健体育科では、子どもたちが、運動や健康に関する原則についての理解を深め、運動や健康に対しての概念を更新していく学びを積み重ねることで、問いを立て、その時の納得解を見いだすことで見方を鍛えていく姿を願っている。そして、そのような願う学びを重ねた子どもたちは、状況を適切に判断し、よりよい選択ができる「**運動や健康を科学する人**」になっていくだろう。